

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども学科

科目名	こどもの保健	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	望ましい保育者となるために、子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解するとともに健康増進を図る保健活動の意義を理解する。併せて子どもの身体的な発育・発達と保健、子どもの疾病とその予防法を理解し、他職種間の連携・協働のもとで適切な対応について理解する。				
授業概要	①小児保健の意義を理解し、それぞれの発達段階における身体的、生理的、社会性も踏まえた精神機能の発達について学ぶ。 ②発達段階における子どもの病気の特徴や予防について学び、健康状態の把握の方法、他の関係機関との連携の在り方を学び、適切な対応について理解する。 ③子どもの保健衛生活動に関連する機関・施設の役割について理解する。				
授 業 計 画 表	1 子どもの心身の健康と保健の意義 2 子どもの健康に関する現状と課題 3 地域における保健活動 4 子どもの身体的発育・発達と保健 5 子どもの健康状態とその把握 6 子どもの保育環境と養護 7 子どもの疾病と予防及び適切な対応①:症状別対応 8 子どもの疾病と予防及び適切な対応②:感染症、感染症の予防 9 子どものアレルギー疾患 10 子どもの虐待防止 11 急病時、傷害時における応急処置 12 保育における健康・安全管理 13 慢性疾患や障害のある子どもの保育と対応 14 保護者への子育て支援と地域の関係機関との連携 15 学生自身のリフレクション				
成績評価 基準	レポート課題・科目試験の結果により判定し評価する				
使用テキスト 等	「こどもの保健」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説」(最新版) (フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版) (フレーベル館)				
実務経験 がある教員 による授業 科目	養護教諭(38年) ※上記の経験を持つ教員により、保健活動の意義や発育、発達によるこどもの健康状態の把握、また子どもの疾病と予防などを学ぶ。				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども学科

科目名	保育原理	授業区分	講義	単位数	2																
授業目標	1. 保育の意義及び目的について理解する。 2. 保育に関する法令及び制度を理解する。 3. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 4. 保育の思想と歴史的変遷について理解する。 5. 保育の現状と課題について理解する。																				
授業概要	子どもをめぐる環境を踏まえながら、保育・教育に携わる者に求められる保育に関する基本的な知識を学び、保護者としての視点を養い、保育・幼児教育の根幹をなす原理を追及する。																				
授業計画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 保育の理念と概念</td> <td style="width: 50%;">9 保育所保育に関する基本原則</td> </tr> <tr> <td>2 子どもの最善の利益と保育</td> <td>10 保育における養護</td> </tr> <tr> <td>3 子ども家庭福祉と保育</td> <td>11 保育の目標・内容</td> </tr> <tr> <td>4 保育の社会的役割と責任</td> <td>12 保育の環境・方法</td> </tr> <tr> <td>5 子ども家庭福祉の法体系における保育の位置付けと関係法令</td> <td>13 子どもの理解に基づく保育の過程とその循環</td> </tr> <tr> <td>6 子ども・子育て支援新制度</td> <td>14 日本・諸外国の保育の思想と歴史</td> </tr> <tr> <td>7 保育の実施体系</td> <td>15 諸外国の保育の現状・日本の保育の現状と課題</td> </tr> <tr> <td>8 保育所保育指針</td> <td></td> </tr> </table>					1 保育の理念と概念	9 保育所保育に関する基本原則	2 子どもの最善の利益と保育	10 保育における養護	3 子ども家庭福祉と保育	11 保育の目標・内容	4 保育の社会的役割と責任	12 保育の環境・方法	5 子ども家庭福祉の法体系における保育の位置付けと関係法令	13 子どもの理解に基づく保育の過程とその循環	6 子ども・子育て支援新制度	14 日本・諸外国の保育の思想と歴史	7 保育の実施体系	15 諸外国の保育の現状・日本の保育の現状と課題	8 保育所保育指針	
1 保育の理念と概念	9 保育所保育に関する基本原則																				
2 子どもの最善の利益と保育	10 保育における養護																				
3 子ども家庭福祉と保育	11 保育の目標・内容																				
4 保育の社会的役割と責任	12 保育の環境・方法																				
5 子ども家庭福祉の法体系における保育の位置付けと関係法令	13 子どもの理解に基づく保育の過程とその循環																				
6 子ども・子育て支援新制度	14 日本・諸外国の保育の思想と歴史																				
7 保育の実施体系	15 諸外国の保育の現状・日本の保育の現状と課題																				
8 保育所保育指針																					
成績評価基準	成績評価：出席状況・授業態度・試験・レポート内容等を総合的に評価する。せいせき																				
使用テキスト等	「保育原理」(配本テキスト)																				
実務経験がある教員による授業科目	保育所保育士(24年)認定こども園園長(5年 現職) ※上記の経歴を持つ教員による授業で、保育の基礎的知識や歴史等、子ども、保護者、保育者の各視点から保育をとらえる授業を行う。																				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども学科

科目名	乳幼児保育 I	授業区分	講義	単位数	2		
授業目標	1. 乳児保育の意義、目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携、協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。						
授業概要	乳児保育の意義と目的、歴史の変遷及び役割、現状と課題について理解する。 また、3歳未満児の発育や発達を踏まえた保育内容、運営体制、職員間の連携、協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。						
授業計画表	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷 2 乳児保育の役割と機能 3 乳児保育における養護及び教育 4 乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 5 保育所における乳児保育 6 保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育 7 家庭的保育等における乳児保育 8 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 9 3歳未満児の生活と遊びと環境 10 3歳以上児の保育に移行する時期の保育 11 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり 12 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮 13 乳児保育における計画・記録評価とその意義 14 職員間の連携・協働 保護者との連携・協働 15 自治体や地域の関係機関等との連携・協働 </td> </tr> </table>					1 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷 2 乳児保育の役割と機能 3 乳児保育における養護及び教育 4 乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 5 保育所における乳児保育 6 保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育 7 家庭的保育等における乳児保育 8 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場	9 3歳未満児の生活と遊びと環境 10 3歳以上児の保育に移行する時期の保育 11 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり 12 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮 13 乳児保育における計画・記録評価とその意義 14 職員間の連携・協働 保護者との連携・協働 15 自治体や地域の関係機関等との連携・協働
1 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷 2 乳児保育の役割と機能 3 乳児保育における養護及び教育 4 乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 5 保育所における乳児保育 6 保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育 7 家庭的保育等における乳児保育 8 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場	9 3歳未満児の生活と遊びと環境 10 3歳以上児の保育に移行する時期の保育 11 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり 12 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮 13 乳児保育における計画・記録評価とその意義 14 職員間の連携・協働 保護者との連携・協働 15 自治体や地域の関係機関等との連携・協働						
成績評価基準	出席状況・授業態度・試験・レポート内容等を総合的に評価する。						
使用テキスト等	「乳幼児保育 I」(配本テキスト)						
実務経験がある教員による授業科目	保育所(保育士・園長 通算15年) 乳児院(21年)の勤務歴、社会福祉士の資格を有する。 ※上記の経験を持つ教員により、乳児保育の意義と目的、及び3歳未満児の発育や発達を踏まえた保育内容、保護者や関係機関との連携等について授業する。						

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども学科

科目名	こども家庭支援論	授業区分	講義	単位数	2																
授業目標	子ども家庭支援の意義とその役割について理解を深めることに加え、子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。多様な子育て家庭のニーズの把握と支援体制を理解する。また、特別なニーズへの対応と支援における関係機関等の連携など多様な支援展開について理解する。																				
授業概要	子育て家庭を取り巻く様々な社会的状況について把握し、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の現状と課題について理解を深める。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開を理解する。特別なニーズをもつ子育て家庭への支援方策として関係機関の連携等、各ニーズの特性を捉えながら学習を進める。																				
授業計画	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">1. 家族・家庭・世帯とは</td> <td style="width: 50%; border: none;">9. 新たな子育て支援制度</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">2. 家族と家庭の形態と機能</td> <td style="border: none;">10. 子育て家庭支援の体系</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">3. ライフステージ</td> <td style="border: none;">11. 保育者による家庭支援の原理</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">4. 社会環境の変化と現代の家庭</td> <td style="border: none;">12. 保育所における子育て家庭支援</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">5. 現代の家庭と子育てをめぐる問題</td> <td style="border: none;">13. 地域における子育て家庭支援</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">6. 要保護家庭の問題</td> <td style="border: none;">14. 子ども家庭福祉の諸相</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">7. 子育て家庭を支援する法・制度</td> <td style="border: none;">15. 要保護児童とその家庭に対する支援</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">8. 子育て家庭を支援する社会資源</td> <td style="border: none;"></td> </tr> </table>					1. 家族・家庭・世帯とは	9. 新たな子育て支援制度	2. 家族と家庭の形態と機能	10. 子育て家庭支援の体系	3. ライフステージ	11. 保育者による家庭支援の原理	4. 社会環境の変化と現代の家庭	12. 保育所における子育て家庭支援	5. 現代の家庭と子育てをめぐる問題	13. 地域における子育て家庭支援	6. 要保護家庭の問題	14. 子ども家庭福祉の諸相	7. 子育て家庭を支援する法・制度	15. 要保護児童とその家庭に対する支援	8. 子育て家庭を支援する社会資源	
1. 家族・家庭・世帯とは	9. 新たな子育て支援制度																				
2. 家族と家庭の形態と機能	10. 子育て家庭支援の体系																				
3. ライフステージ	11. 保育者による家庭支援の原理																				
4. 社会環境の変化と現代の家庭	12. 保育所における子育て家庭支援																				
5. 現代の家庭と子育てをめぐる問題	13. 地域における子育て家庭支援																				
6. 要保護家庭の問題	14. 子ども家庭福祉の諸相																				
7. 子育て家庭を支援する法・制度	15. 要保護児童とその家庭に対する支援																				
8. 子育て家庭を支援する社会資源																					
成績評価基準	<p>学習状況の確認：レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>成績評価：科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）</p>																				
使用テキスト等	<p>「こども家庭支援論」(配本テキスト)</p> <p>「保育所保育指針解説書」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p>																				
実務経験がある教員による授業科目	<p>保育所(保育士・園長 通算15年) 乳児院(21年) の勤務歴があり、社会福祉士・介護支援相談員の資格を有する。</p> <p>※上記の経験を持つ教員により、子育て支援の現状、その対応についての授業を行う。</p>																				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども学科

科目名	社会的養護Ⅱ	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的内容について具体的に理解する 2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する スクーリング:社会的養護の対象の子どもを理解し、その困難を共に支えるための技術、知識、価値観を身に着ける。				
授業概要	体験的な授業で、コミュニケーション力、リーダーシップなど必要な技術と、ネットワーク運営のための技術を身に着ける。				
授業計画	1. 社会的養護の子どもの理解 2. 自立支援 3. 相談援助の知識と技術1(コミュニケーション) 4. 相談援助の知識と技術2(リーダーシップ) 5. 相談援助の知識と技術3(コーチング) 6. ネットワークの知識と技術1(ディスカッション) 7. ネットワークの知識と技術2(チームビルディング) 8. 社会的養護の課題と展望				
成績評価基準	成績評価:受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用いる)				
使用テキスト等	「保育所保育指針解説書」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	重度身障者入所授産施設指導員(3年)、乳児院(指導員8年、副院長歴5年、院長15年、会長6年) ※上記の経験を持つ教員により、社会的養護に関わる理解と相談援助の方法、家庭支援等に関する授業を行う。				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども学科

科目名	保育実習指導 I	授業区分	演習	単位数	2
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。保育所・認定こども園・児童福祉施設のそれぞれの意義を知る。 2. 実習の流れと実習の心得を学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> ①実習の種類(参観実習・参加実習・責任実習)を学ぶ。 ②社会人のマナーや、ほうれんそう(報告・連絡・相談)の重要性を知る。 3. 実習の目標・実習課題を学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> ①実習課題の設定の仕方を学ぶ ②指導案の意味と立て方を学ぶ ③実習日誌の書き方を学ぶ 4. 事後指導では、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題・目標を設定する。 				
授業概要	<p>実習の意義・目的を理解し、今までの学びを考えながら、子どもをどう援助していくか演習を通して考える。実習の流れと心得えをテキストを中心に学び、自分の実習課題を考える。(演習)保育指導案・実習日誌の書き方を学ぶ。事後指導では、実習の振り返り・自己評価を行い新たな課題や目標を設定する。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の意義・目的を理解する 2. 保育所とは何か、その現状と課題 3. 新保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 4. 保育所の職場構成と連携 5. 社会人のマナー 「報告・連絡・相談」の重要性 6. 乳幼児の年齢別発達の特徴 7. 緊急時の対応(ケガ・地震・火事等)、事故予防について 8. 実習の種類(参観実習・参加実習・責任実習)とは何か 9. 実習日誌の書き方・保育指導案の立て方 10. 保育技術の利用 絵本の読み方・手遊びの仕方・ピアノ等 11. 児童福祉施設の種別および特徴 12. 社会的養護の原理・原則および支援について 13. プライバシーの保護と守秘義務 14. 児童福祉施設の他職種および他機関との連携の仕方 15. 事後学習 実習の総括と自己評価 新たな課題や自己目標の明確化 				
成績評価基準	<p>成績評価:受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する。</p>				
使用テキスト等	<p>「保育実習指導」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説書」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)</p>				
実務経験がある教員による授業科目	<p>幼稚園教諭(6年)、保育所保育士(13年)、幼保連携型認定こども園(主幹教諭・副園長通算5年) ※上記の経験を持つ教員により授業を行い、保育実習の意義・目的理解し、実習の流れと心得を体験しながら、実習課題を考える。保育指導案・実習日誌の書き方はもとより、事後指導では、実習の振り返り・自己評価を行う。</p>				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	生 活	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	生活科の歴史、趣旨、目標と内容および授業づくりの視点等についての理解を深め、生活科の授業を展開するための基本的内容を理解する。				
授業概要	生活科は具体的な活動や体験を通して、よき生活者としての生きる智慧を身につけることを目指していると考えられる。そのため、「生活科とは何か」という根本的・本質的な側面を明らかにしつつ、内容構成、指導計画、評価、授業作りの視点などについて考えていく。				
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活科の教科としての位置づけ、歴史 2. 生活科とこどもの発達 3. 学習指導要領（平成29年告示）生活科改訂の内容と留意点 3. 生活科の目標とその吟味・検討 4. 生活科の内容構成と具体的な視点1 5. 生活科の内容構成と具体的な視点2 6. 生活科の内容構成と階層性 7. 生活科と体験学習 8. 生活科の指導計画作成及び学習指導上の留意点 9. 生活科における気付き 10. 生活科の単元構成と指導原理 11. 生活科の評価 12. 生活科の学習指導の進め方 13. 生活科の指導実践事例について 14. 就学前教育と生活科、スタートカリキュラムの配慮事項 15. 生活科と総合的な学習の時間 				
成績評価 基準	<p>学習状況の確認：レポート課題において専門的知識の理解度および思考表現により判定し評価する。</p> <p>成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。</p>				
使用テキ スト等	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活」（配本テキスト） ・小学校学習指導要領解説 生活編（平成29年6月 文部科学省） 				
実務経験 がある教 員による 授業科目	<p>小学校教員（教諭・校長 通算33年）教育センター指導主事（5年）幼稚園長（3年） ※上記の経験を持つ教員により、生活科の本質、授業構成の視点等を理解し、ことについて授業を行う。</p>				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	生徒指導・進路指導	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	<p>わが国では今日的課題として青少年の問題行動の多発化、若者のニート等の勤労観・職業観の欠如が大きな社会問題となっている。</p> <p>そこで将来、教育に携わる者にとって必要な教科指導と共に生徒指導・進路指導の必要性を十分理解し指導できる力を育てることをねらいとする。</p> <p>そのため下記のことにも努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導と生徒指導・進路指導が一体化した指導ができるようにする。 ・様々な幼児、児童生徒の問題行動に対応できる指導力を身につける。 				
授業概要	<p>本授業は、「生徒指導の意義と原理」「すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方」「児童生徒の抱える生徒指導上の課題」「養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方」などを中心に学修を進めていく。特に児童生徒全体への指導においては、チームによる支援、学校種間や学校間の連携の重要性について理解を図る学修にする。進路指導においては、学校で学ぶことと社会との接続を踏まえ、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を育む進路指導・キャリア教育の意義や原理について学修する。具体的には進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善、ガイダンス機能、キャリア・カウンセリングなどについて理解を深める学修にする。</p>				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ生徒指導・進路指導は必要か ・生徒指導の今日的課題 ・生徒指導の意義・目的・必要性・領域 ・学習指導と生徒指導の一体化（事故指導能力の育成） ・生徒指導上の教師の基本姿勢 ・進路指導の意義・理念 ・進路指導の進め方（就学前指導含む） ・キャリア教育とは、必要性は ・キャリア教育の推進・体験活動 ・いじめ、不登校の実態と対応策（実例） ・問題行動の実態と対応実例 				
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時の出欠状況、学習態度 ・テスト、レポートの総合評価 				
使用テキスト等	<p>「生徒指導・進路指導」（配本テキスト）</p>				
実務経験がある教員による授業科目	<p>中学校教諭（18年）小学校教諭（6年）中学校校長（3年）高等学校校長（3年）</p> <p>※上記の経験を持つ教員により、学習指導と生徒指導・進路指導が一体化した指導ができるように授業を行う。</p>				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	生徒指導の理論と方法	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	<p>生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。</p> <p>(1) 教育課程における生徒指導の位置付けを理解するとともに、各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義や重要性を理解している。</p> <p>(2) 集団指導・個別指導の方法原理を理解し、日々の生徒指導の在り方を認識している。</p> <p>(3) 生徒指導体制の基本的な考え方を理解している。</p> <p>(4) 生徒指導の組織と指導計画に基づいた組織的な取組みについて理解している。</p> <p>(5) 生徒指導の機能が十分保障される指導の在り方を理解している。</p> <p>(6) 校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令の内容を理解するとともに、暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応の視点を理解している。</p> <p>(7) インターネットや性に関する課題、児童虐待への対応等の今日的な生徒指導上の課題や、専門家や関係機関との連携の在り方を例示することができる。</p>				
授業概要	<p>本授業は、「生徒指導の意義と原理」「すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方」「児童生徒の抱える生徒指導上の課題」「養護教諭等の教職員、がいぶの専門家。関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方」などを中心に学修を進めていく。特に児童生徒全体への指導においては、チームによる支援、学校種間や学校間の連携の重要性について理解を図る学修にする。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程における生徒指導の位置付け（6時間） 2. 各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義（6時間） 3. 集団指導・個別指導の方法原理（6時間） 4. 生徒指導体制の基本的な考え方（6時間） 5. 教育相談体制の基礎的な考え方（6時間） 6. 学校の指導方針や指導計画に基づいた組織的な取組み（6時間） 7. 基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方（6時間） 8. 生徒指導の機能を保障した日々の生徒指導の進め方（6時間） 9. 生徒指導に関する法制度（6時間） 10. 暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題に対する早期発見と効果的な指導（6時間） 11. インターネットや性に関する課題や児童虐待などの今日的課題の対応について（6時間） 12. 学校と家庭・地域・関係機関との連携（6時間） 13. 生徒指導における児童生徒理解の重要性（6時間） 14. 発達に関する課題と対応（6時間） 15. 生徒指導の評価と改善（6時間） 				
成績評価基準	<p>学習状況の確認：レポートの課題において専門的知識の理解度および思考表現により判定し評価する。</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。</p>				
使用テキスト等	<p>「生徒指導提要」（配本テキスト）</p>				
実務経験がある教員による授業科目	<p>中学校教諭（18年）小学校教諭（6年）中学校校長（3年）高等学校校長（3年）</p> <p>※上記の経験を持つ教員により、他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける授業を行う。</p>				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	理科指導法	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	<p>「生きる力」を培う理科の授業では、観察、実験、自然観察、ものづくりのどの化学体験を通して作られる知とともに、子ども自らが主体的に知の作り方を獲得していく学習指導が大切である。そのためには、子どもが新たな体験や発見をすることに生じるこんな世界があったのかと感動を与えられるような授業作りを求めていきたい。</p> <p>したがって、そのような授業の創造のために、教材開発の仕方、授業の展開方法、学習指導案の作成の仕方などを習得するとともに、模擬授業などを体験することによって理科教員としての実践力や心構えを身につけることを目的とする。</p>				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校理科指導に必要な基本的考え方、指導技術などの実践的指導力を学ぶ。 教材開発の仕方、学習指導法(授業展開の基本・評価)、学習指導案の作成、模擬授業 ・直接体験を重視する理科教育の特性から、子どもが考えた観察・実験の生かし方を追及する。 ・映像教材の特性を生かして、「NHK 学校放送」などをはじめ教育機器を活用した授業設計を学ぶ。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.新しい学力観の意味するもの ・諸君格好理科教育で培いたい資質・能力 2.小学校指導要領(理科)の変貌と改定の要点—理科教育の役割と現代的な課題及び展望 3.物理分野の学習材と指導 ・風やゴムの動き 光の性質 てこの規則性 4.科学分野の学習材と指導 ・基本的な実験操作 燃焼の仕組み 5.生物分野の学習材と指導 ・生物学習の宝庫づくり (生物教材の植樹、雑草地の活用ビオトープ池の設置) 6.地学分野の学習材と指導 ・地球環境学習の重要性 土地のつくりと変化 7.学習指導法の類型とその特色 ・問題解決学習 系統学習 探求学習 8.学習指導案作成 その1 ・教材観 児童観 指導観 9.学習指導案作成 その2 ・学習指導展開と評価方法 10.指導計画作成の考え方 ・指導目標の具体化の技術 こどもの実態を捉える技術教材の曖昧と提示 11.観察・実験や野外観察における事故防止 ・事故防止のための基本的考え方留意点と対策 12.理科教育における環境教育の展開 ・環境教育の課題/健軍水源地見学及び江津湖の自然観察 13.学習意欲を高める授業 ・学習意欲の現状と課題 学習意欲をどのように育成するか 14.授業展開の基本 ・授業の果たすべき役割 授業構成の要素 授業構成のポイント 15.模擬授業 ・知的好奇心や探求心を高める授業づくり 				
成績評価基準	<p>授業への参加意欲や態度、目的に応じた適切な資料の作成や活用と保存、出席状況、テスト、レポート等を通して総合的に評価する。</p>				
使用テキスト等	<p>「理科指導法」(配本テキスト)</p>				
実務経験がある教員による授業科目	<p>中学校教諭(7年) 小学校教諭(21年) 小学校教頭(10年)</p> <p>※上記の経験を持つ教員により、小学校理科指導に必要な基本的考え方、指導技術などの実践的指導力を身に付ける授業を行う。</p>				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	特別活動指導法	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	特別活動の目的は、人間形成にある。教科教育とは異なり、自主的、実践的な態度を育てる集団活動である。学校や児童・生徒の実態に応じて、学校の自主性と創意・工夫を重視して指導し、人間形成の到達を目指すものである。				
授業概要	特別活動の歴史と現代的意義を理解した上で、新しい学力観と特別活動の係りを考察する。また、特別活動、児童会活動、クラブ活動及び学校行事などのそれぞれの特質を明確に把握する。年間指導計画や学習指導案、それに学級新聞など実践に関する課題を考えていきたい。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1、第1次 特別活動の理論 2、教育課程と特別活動の意義及び重要性 3、教育課程行政と学習指導要領と特別活動 4、特別活動の歴史からみた特質 5、学校教育課程の編成・実施と特別活動 6、第2次 特別活動の指導原理 7、特別活動の指導体制 8、特別活動の年間指導計画の内容と手順 9、第3次 特別活動の実践指導 10、学校行事の年間指導計画 11、学級活動の年間指導計画 12、学級新聞作り 13、第4次 特別活動の評価と現代の課題 14、特別活動の指導評価 15、特別活動と現代の課題 				
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業でのレポート作成及び提出を考慮する。 ・授業を受ける態度や取り組みへの意欲を考慮する。 ・授業への出欠を考慮する。 				
使用テキスト等	<p>「特別活動指導法」（配本テキスト）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省「小学校学習指導要領」 ・文部科学省「小学校学習指導要領解説特別活動編」 ・文部科学省「小学校指導書 特別活動編」 				
実務経験がある教員による授業科目	<p>中学校教諭（38年）中学校教頭（4年）小学校校長（3年）熊本県教育センター（3年）短期大学准教授（12年）</p> <p>※上記の経験を持つ教員により、学校や児童・生徒の実態に応じて、学校の自主性と創意・工夫を重視して指導し、人間形成の到達を目指すように授業を行う。</p>				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	国 語 I	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	小学校国語科教育に必要な国語の基礎的・基本的知識を学習することを目標とする。 国語科においてこれまでの研究について明らかになったことや問題点について理解する。				
授業概要	普段使っている日本語について興味と関心を持ち、「日本語の特徴」「言語の習得」「語彙」「文法」等に触れ、日本語の歴史について理解を深める。				
授 業 計 画	1、国語の輪郭 2、子どもの国語と音韻 3、詩の朗読を通して国語の音声と音韻 4、国語の品詞と文法 5、国語と外来語 6、敬語 7、方言と共通語 8、漢語 9、詩 10、短歌、俳句 11、四字熟語 12、古典 13、かたかな、ひらがな、漢字 14、表記法 15、日本語の歴史				
成績評価 基準	発表態度、演習態度、出席、実演等と期末テストによつ、総合的に判断する。				
使用テキ スト等	「国語1」（配本テキスト）				
実務経験 がある教 員による 授業科目	小学校校長（26年） ※上記の経験を持つ教員により、普段使っている日本語について興味と関心を持ち、「日本語の特徴」「言語の習得」「語彙」「文法」等に触れ、日本語の歴史について理解を深めるよう授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	教育実習事前・事後指導（小学校）	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校における教育実習に対する心構えをもち教育実習の内容を理解する。 2. 教育環境の整備、授業の準備、学習指導の方法等、教育活動、学習指導の在り方を理解する。 3. 小学校教師の役割と責任を理解し、教育活動の実践的な認識を深める。 4. 教職生活を体験することにより教職志望を確認し教育研究の意欲を高める。 				
授業概要	<p>教職に関する科目の「教育実習事前・事後指導（小学校）」は小学校教育実習へ向けて、その心構えの形成、教育実習の目的の理解、実戦的指導力の向上及び教育実習後の教育実践体験の省察が目標となる。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の準備と心構え ①実習校への対応、②実習へ臨む心構え、③実習に関する事務的な手続きなど 2. 教育実習で学ぶべき内容 ①教師と児童の関係、児童同士の関係、②教師の児童への働きかけ、③学習指導の在り方、④学級経営など 3. 実習記録の意義と記録の在り方 ①実習記録の記入の仕方、活用の仕方、授業参観、観察・記録の方法など 4. 児童理解について ①児童理解の方法、②学習指導と児童理解、③特別支援教育と児童理解、④生徒指導と児童理解 5. 学習指導案と授業展開 ①教科等の学習指導案の検討、学習の導入、授業形態、発問、板書などについて 6. DVD（授業実践例）による授業の検討 ①DVDによる授業の検討、②模擬授業批評会など 7. 模擬授業 ①相互に批評しよりよい授業についての検討、②授業参観の視点、③自己の実践的能力の課題の明確化など 8. 教育自習終了後の取り組みについて 				
成績評価基準	レポート、模擬授業、授業への関心・意欲・態度をもとに総合的に評価する。				
使用テキスト等	「教育実習事前・事後指導（小学校）」（配本テキスト）				
実務経験がある教員による授業科目	<p>小学校校長(26年) ※上記の経験を持つ教員により、小学校における教育実習に対する心構えや教育実習の内容を理解するよう授業を行う。</p>				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	家庭科指導法	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の目標、内容を理解し、実践的、体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的な知識と技能を身につける。 ・家庭科の各領域の学習指導の実際について理解する。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学習指導要領解説〔家庭編〕の内容を理解する。 ・各領域の授業内容作りに必要な基本的考えを理解する。 ・授業内容の学習指導案作成。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1、家庭科教育について 2、女性差別撤廃条約 3、こどもの権利条約 4、男女共同参画社会 5、家族・家庭について 6、小学校学習指導要領解説 「家庭編」の内容 7、小学校（5・6年）の家庭科の内容 8、「わたしたちの家庭科」の学習内容の指導案作成 				
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況・授業態度・試験結果・提出物等をもって総合的に評価する。 				
使用テキスト等	<p>「わたしたちの家庭科5・6年」「小学校学習指導要領解説 家庭編」（配本テキスト）</p>				
実務経験がある教員による授業科目	<p>高校教諭（経験38年） ※上記の経験を持つ教員により、家庭科の基礎・各領域の学習指導の実際を理解するよう授業を行う。</p>				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	こどもの保健	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	望ましい保育者となるために、子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解するとともに健康増進を図る保健活動の意義を理解する。併せて子どもの身体的な発育・発達と保健、子どもの疾病とその予防法を理解し、他職種間の連携・協働のもとで適切な対応について理解する。				
授業概要	①小児保健の意義を理解し、それぞれの発達段階における身体的、生理的、社会性も踏まえた精神機能の発達について学ぶ。 ②発達段階における子どもの病気の特徴や予防について学び、健康状態の把握の方法、他の関係機関との連携の在り方を学び、適切な対応について理解する。 ③子どもの保健衛生活動に関連する機関・施設の役割について理解する。				
授業計画表	1 子どもの心身の健康と保健の意義 2 子どもの健康に関する現状と課題 3 地域における保健活動 4 子どもの身体的発育・発達と保健 5 子どもの健康状態とその把握 6 子どもの保育環境と養護 7 子どもの疾病と予防及び適切な対応①:症状別対応 8 子どもの疾病と予防及び適切な対応②:感染症、感染症の予防 9 子どものアレルギー疾患 10 子どもの虐待防止 11 急病時、傷害時における応急処置 12 保育における健康・安全管理 13 慢性疾患や障害のある子どもの保育と対応 14 保護者への子育て支援と地域の関係機関との連携 15 学生自身のリフレクション				
成績評価基準	レポート課題・科目試験の結果により判定し評価する				
使用テキスト等	「こどもの保健」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説」(最新版) (フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版) (フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	養護教諭(38年) ※上記の経験を持つ教員により、保健活動の意義や発育、発達によるこどもの健康状態の把握、また子どもの疾病と予防などを学ぶ。				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	養護実習事前・事後指導	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	① （事前指導）養護実習に向けて十分な準備と心構えを持つことができる。 ② （事前指導）養護教諭の職務や専門性について説明できる。 ③ （事後指導）養護実習終了後、実習をふりかえり、自身の今後研鑽すべき課題を発見し、自己の描く養護教諭像に近づける見通しをもつことができる。				
授業概要	養護実習をより充実したものとするため、実習の目的、意義についての理解を深め、実習への心構えを明確にする。また、実習の方法、実習簿の記録方法について説明すると共に、実習で必要となる基礎的知識や技術、マナーや倫理についての確認を行う。 以上の学習を通して、養護実習に必要な基礎的知識・技術を習得し、実習への姿勢を明確にする。				
授業計画	1. 養護実習の目的、意義、方法 2. 目標の設定、養護実習の内容 3. 学校教育、学校保健全般に関すること（最新事情） 4. 養護教諭の職務と保健室 5. 学校の日（健康観察、学校環境・安全、アレルギー、感染症等） 6. 学校行事（健康診断等） 7. 健康教育と養護教諭（指導案の作製等） 8. 実習生としての心得（マナー、実習記録簿の記入等）				
成績評価基準	授業への参加度、提出物、レポートの結果を総合して評価する。				
使用テキスト等	「養護実習事前・事後指導」（配本テキスト）				
実務経験がある教員による授業科目	養護教諭（38年） ※上記の経験を持つ養護教諭により、養護実習をより充実したものとするため、実習の目的、意義についての理解を深め、実習への心構えを明確にするよう授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	公衆衛生学 I	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	公衆衛生とは、人間が健康に生活できるための組織的社会活動である。健康については多くの機関によりさまざまに定義されていることを理解する。				
授業概要	公衆衛生学では、「健康」を個人と集団のレベルで考える学問である。公衆衛生学 I では個人レベルの課題を中心として、健康と疾病、公衆衛生活動の概念を学びつつ、健康の維持・増進に関わる諸問題について、保健統計や諸外国との比較、栄養の考え方なども含めて学習する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の概念 公衆衛生、予防医学の定義、公衆衛生活動を学習し健康を維持するうえでの役割を理解する。 2. 人口統計・保健統計 静態統計・動態統計からそれぞれの国、地域の人々の人口、疾病、傷病の状況から健康について学ぶ。 3. 成人保健 成人期に発生しやすい疾病の予防・健康の維持・増進をはかり、疾病の予防手段の適用を考え健康に対してのプロセス構築を理解し有意義な生活が送れること学ぶ。 4. 疾病予防を健康管理 疾病の予防は、発症の阻止だけでなく健康と疾病の自然史的な見方の中で予防医学を具体的に理解する。 5. 主な疾病の予防 感染症の基礎知識を理解し、感染症の循環器、糖尿病や癌などの具体的な予防対策について学ぶ。 6. 栄養と健康 栄養素の食事摂取量は身体との密接な関係があり、食事がどのような病態と関連しているか学ぶ。食中毒とその症状の特徴及び食品の安全について学ぶ。 7. 老人福祉 高齢者の定義、高齢者の健康と生活、高齢者の医療の確保に関する法律を学ぶ。 8. 精神保健 精神保健は、重要な分野として位置づけられている今日、精神保健の目的と意義を理解する。 				
成績評価基準	レポート、模擬授業、授業への関心・意欲・態度をもとに総合的に評価する。				
使用テキスト等	「公衆衛生学 I」（配本テキスト）				
実務経験がある教員による授業科目	<p>看護師（26年）</p> <p>※上記の経験を持つ看護師により、公衆衛生、予防医学の定義、公衆衛生活動を学習し健康を維持するうえでの役割を理解するよう授業を行う。</p>				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	看護学 I	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	・看護を提供する際に共通する基本的な技術と健康問題を有する対象者の日常生活を整えるために必要な援助技術について学ぶ。				
授業概要	学校という場における看護的役割や看護的能力の力量形成のための基盤として看護・養護とは何か、看護の役割と機能、看護活動、援助者 ^o の論理に焦点をあてた看護学総論、看護の基本、看護教諭としての資質、養護実践のプロセスの構成要素などに焦点をあてた基礎的看護について考察しながら学習を深める。				
授業計画	<p>I.看護技術の基本</p> <p>1.人間の尊厳にもとづく看護技術 ・尊厳の指標は個人に重きを置いており、看護技術は1人ひとりによりよい日常生活が送れるよう健康の状態をつくることにあり、その知識について学習する。</p> <p>2.看護技術の考え方 ・必要性のある状態をアセスメントし科学的根拠に基づく看護を行う。そのためには看護者自身がより豊かであることが求められている。知識・技術・精神は別なものではないことを学習する。</p> <p>3.人間関係を発展させる技術 ・看護師関係を発展させるには、コミュニケーションという日常的で基本的な技術がある。コミュニケーション全体の53%は聞くことにある。それを考え、その技術を習得する。</p> <p>4.生活を支える援助技術 ・生命現象のあらわれとして生活がある。その生活への働きかけは、日々の生活行動の中に存在しており、その生活行動を支える援助が健康への基本であることを学習する。</p> <p>5.安全・安楽を守る技術 ・看護の働きかけの基本的な要素には、安全・安楽・自立の要素があり身体面と精神面の両側面からとらえ安楽の考え方を学習する。</p> <p>6.自立への過程 ・身体的・心理的・社会的要素が含まれる。ADLの自立 QOL を考え自己決定を尊重していくことが重要になっている。その自立に必要な外的(客観的)・内的(主体的)条件について学習する。</p> <p>7.コミュニケーションの技術 ・効果的(治療的)・効果的ではない(非治療的)コミュニケーションを学習し患者を理解することができ、同時に自分の対応を見直すことができるよう会話のプロセスを学習する。</p> <p>8.ヘルスアセスメント ・ヘルスアセスメントは人間の一生を通して何度なく継続的に行われる。看護診断に関わるもの呼吸・体温・脈拍・血圧等のバイタルの測定技術を習得し、意識レベルを判断する分類について学習する。</p> <p>9.ボディメカニズムと人間工学 ・良い姿勢の保持に留意し、せいいりに疲労しにくいことが重要である。作業姿勢・安楽な姿勢について学習する。</p> <p>10.運動・活動 ・活動には、生産・学習・精神・消化活動があり、運動は空間的一の移動である。活動は筋肉の作用によって生じるものである。その運動の効果と廃用症候群について学習する。</p> <p>11.休息・睡眠 ・生態的には、活動と休息のリズムを作り出す生物時計がある。サーガディアンリズムから考え生活のリズムを整えるよう援助する。</p>				
成績評価基準	・授業態度、筆記試験、レポート提出物の総合評価により判断する。				
使用テキスト等	「ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③基礎看護技術」(配本テキスト)				
実務経験がある教員による授業科目	看護師 (26年) ※上記の経験を持つ看護師により、看護を提供する際に共通する基本的な技術と健康問題を有する対象者の日常生活を整えるために必要な援助技術について学ぶよう授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	こどもの保健	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	望ましい保育者となるために、子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解するとともに健康増進を図る保健活動の意義を理解する。併せて子どもの身体的な発育・発達と保健、子どもの疾病とその予防法を理解し、他職種間の連携・協働のもとで適切な対応について理解する。				
授業概要	①小児保健の意義を理解し、それぞれの発達段階における身体的、生理的、社会性も踏まえた精神機能の発達について学ぶ。 ②発達段階における子どもの病気の特徴や予防について学び、健康状態の把握の方法、他の関係機関との連携の在り方を学び、適切な対応について理解する。 ③子どもの保健衛生活動に関連する機関・施設の役割について理解する。				
授業計画表	1 子どもの心身の健康と保健の意義 2 子どもの健康に関する現状と課題 3 地域における保健活動 4 子どもの身体的発育・発達と保健 5 子どもの健康状態とその把握 6 子どもの保育環境と養護 7 子どもの疾病と予防及び適切な対応①:症状別対応 8 子どもの疾病と予防及び適切な対応②:感染症、感染症の予防 9 子どものアレルギー疾患 10 子どもの虐待防止 11 急病時、傷害時における応急処置 12 保育における健康・安全管理 13 慢性疾患や障害のある子どもの保育と対応 14 保護者への子育て支援と地域の関係機関との連携 15 学生自身のリフレクション				
成績評価基準	レポート課題・科目試験の結果により判定し評価する				
使用テキスト等	「こどもの保健」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説」(最新版) (フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版) (フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	養護教諭(38年) ※上記の経験を持つ教員により、保健活動の意義や発育、発達によるこどもの健康状態の把握、また子どもの疾病と予防などを学ぶ。				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	保育原理	授業区分	講義	単位数	2																
授業目標	1. 保育の意義及び目的について理解する。 2. 保育に関する法令及び制度を理解する。 3. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 4. 保育の思想と歴史的変遷について理解する。 5. 保育の現状と課題について理解する。																				
授業概要	子どもをめぐる環境を踏まえながら、保育・教育に携わる者に求められる保育に関する基本的な知識を学び、保護者としての視点を養い、保育・幼児教育の根幹をなす原理を追及する。																				
授業計画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 保育の理念と概念</td> <td style="width: 50%;">9 保育所保育に関する基本原則</td> </tr> <tr> <td>2 子どもの最善の利益と保育</td> <td>10 保育における養護</td> </tr> <tr> <td>3 子ども家庭福祉と保育</td> <td>11 保育の目標・内容</td> </tr> <tr> <td>4 保育の社会的役割と責任</td> <td>12 保育の環境・方法</td> </tr> <tr> <td>5 子ども家庭福祉の法体系における保育の位置付けと関係法令</td> <td>13 子どもの理解に基づく保育の過程とその循環</td> </tr> <tr> <td>6 子ども・子育て支援新制度</td> <td>14 日本・諸外国の保育の思想と歴史</td> </tr> <tr> <td>7 保育の実施体系</td> <td>15 諸外国の保育の現状・日本の保育の現状と課題</td> </tr> <tr> <td>8 保育所保育指針</td> <td></td> </tr> </table>					1 保育の理念と概念	9 保育所保育に関する基本原則	2 子どもの最善の利益と保育	10 保育における養護	3 子ども家庭福祉と保育	11 保育の目標・内容	4 保育の社会的役割と責任	12 保育の環境・方法	5 子ども家庭福祉の法体系における保育の位置付けと関係法令	13 子どもの理解に基づく保育の過程とその循環	6 子ども・子育て支援新制度	14 日本・諸外国の保育の思想と歴史	7 保育の実施体系	15 諸外国の保育の現状・日本の保育の現状と課題	8 保育所保育指針	
1 保育の理念と概念	9 保育所保育に関する基本原則																				
2 子どもの最善の利益と保育	10 保育における養護																				
3 子ども家庭福祉と保育	11 保育の目標・内容																				
4 保育の社会的役割と責任	12 保育の環境・方法																				
5 子ども家庭福祉の法体系における保育の位置付けと関係法令	13 子どもの理解に基づく保育の過程とその循環																				
6 子ども・子育て支援新制度	14 日本・諸外国の保育の思想と歴史																				
7 保育の実施体系	15 諸外国の保育の現状・日本の保育の現状と課題																				
8 保育所保育指針																					
成績評価基準	成績評価：出席状況・授業態度・試験・レポート内容等を総合的に評価する。せいせき																				
使用テキスト等	「保育原理」(配本テキスト)																				
実務経験がある教員による授業科目	保育所保育士(24年)認定こども園園長(5年 現職) ※上記の経歴を持つ教員による授業で、保育の基礎的知識や歴史等、子ども、保護者、保育者の各視点から保育をとらえる授業を行う。																				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	保育実習指導 I	授業区分	演習	単位数	2
授業目標	1. 保育実習の意義・目的を理解する。保育所・認定こども園・児童福祉施設のそれぞれの意義を知る。 2. 実習の流れと実習の心得を学ぶ。 ①実習の種類(参観実習・参加実習・責任実習)を学ぶ。 ②社会人のマナーや、ほうれんそう(報告・連絡・相談)の重要性を知る。 3. 実習の目標・実習課題を学ぶ。 ①実習課題の設定の仕方を学ぶ ②指導案の意味と立て方を学ぶ ③実習日誌の書き方を学ぶ 4. 事後指導では、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題・目標を設定する。				
授業概要	実習の意義・目的を理解し、今までの学びを考えながら、子どもをどう援助していくか演習を通して考える。実習の流れと心得えをテキストを中心に学び、自分の実習課題を考える。(演習) 保育指導案・実習日誌の書き方を学ぶ。事後指導では、実習の振り返り・自己評価を行い新たな課題や目標を設定する。				
授業計画	1. 実習の意義・目的を理解する 2. 保育所とは何か、その現状と課題 3. 新保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 4. 保育所の職場構成と連携 5. 社会人のマナー「報告・連絡・相談」の重要性 6. 乳幼児の年齢別発達の特徴 7. 緊急時の対応(ケガ・地震・火事等)、事故予防について 8. 実習の種類(参観実習・参加実習・責任実習)とは何か 9. 実習日誌の書き方・保育指導案の立て方 10. 保育技術の利用 絵本の読み方・手遊びの仕方・ピアノ等 11. 児童福祉施設の種別および特徴 12. 社会的養護の原理・原則および支援について 13. プライバシーの保護と守秘義務 14. 児童福祉施設の他職種および他機関との連携の仕方 15. 事後学習 実習の総括と自己評価 新たな課題や自己目標の明確化				
成績評価基準	成績評価:受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する。				
使用テキスト等	「保育実習指導」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説書」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	幼稚園教諭(6年)、保育所保育士(13年)、幼保連携型認定こども園(主幹教諭・副園長通算5年) ※上記の経験を持つ教員により授業を行い、保育実習の意義・目的理解し、実習の流れと心得を体験しながら、実習課題を考える。保育指導案・実習日誌の書き方はもとより、事後指導では、実習の振り返り・自己評価を行う。				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	乳幼児保育 I	授業区分	講義	単位数	2		
授業目標	1. 乳児保育の意義、目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携、協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。						
授業概要	乳児保育の意義と目的、歴史の変遷及び役割、現状と課題について理解する。 また、3歳未満児の発育や発達を踏まえた保育内容、運営体制、職員間の連携、協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。						
授業計画表	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷 2 乳児保育の役割と機能 3 乳児保育における養護及び教育 4 乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 5 保育所における乳児保育 6 保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育 7 家庭的保育等における乳児保育 8 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 9 3歳未満児の生活と遊びと環境 10 3歳以上児の保育に移行する時期の保育 11 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり 12 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮 13 乳児保育における計画・記録評価とその意義 14 職員間の連携・協働 保護者との連携・協働 15 自治体や地域の関係機関等との連携・協働 </td> </tr> </table>					1 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷 2 乳児保育の役割と機能 3 乳児保育における養護及び教育 4 乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 5 保育所における乳児保育 6 保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育 7 家庭的保育等における乳児保育 8 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場	9 3歳未満児の生活と遊びと環境 10 3歳以上児の保育に移行する時期の保育 11 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり 12 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮 13 乳児保育における計画・記録評価とその意義 14 職員間の連携・協働 保護者との連携・協働 15 自治体や地域の関係機関等との連携・協働
1 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷 2 乳児保育の役割と機能 3 乳児保育における養護及び教育 4 乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 5 保育所における乳児保育 6 保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育 7 家庭的保育等における乳児保育 8 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場	9 3歳未満児の生活と遊びと環境 10 3歳以上児の保育に移行する時期の保育 11 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり 12 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮 13 乳児保育における計画・記録評価とその意義 14 職員間の連携・協働 保護者との連携・協働 15 自治体や地域の関係機関等との連携・協働						
成績評価基準	出席状況・授業態度・試験・レポート内容等を総合的に評価する。						
使用テキスト等	「乳幼児保育 I」（配本テキスト）						
実務経験がある教員による授業科目	保育所（保育士・園長 通算15年） 乳児院（21年）の勤務歴、 社会福祉士の資格を有する。 ※上記の経験を持つ教員により、乳児保育の意義と目的、及び3歳未満児の発育や発達を踏まえた保育内容、保護者や関係機関との連携等について授業する。						

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	こども家庭支援論	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	子ども家庭支援の意義とその役割について理解を深めることに加え、子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。多様な子育て家庭のニーズの把握と支援体制を理解する。また、特別なニーズへの対応と支援における関係機関等の連携など多様な支援展開について理解する。				
授業概要	子育て家庭を取り巻く様々な社会的状況について把握し、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の現状と課題について理解を深める。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開を理解する。特別なニーズをもつ子育て家庭への支援方策として関係機関の連携等、各ニーズの特性を捉えながら学習を進める。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族・家庭・世帯とは 2. 家族と家庭の形態と機能 3. ライフステージ 4. 社会環境の変化と現代の家庭 5. 現代の家庭と子育てをめぐる問題 6. 要保護家庭の問題 7. 子育て家庭を支援する法・制度 8. 子育て家庭を支援する社会資源 9. 新たな子育て支援制度 10. 子育て家庭支援の体系 11. 保育者による家庭支援の原理 12. 保育所における子育て家庭支援 13. 地域における子育て家庭支援 14. 子ども家庭福祉の諸相 15. 要保護児童とその家庭に対する支援 				
成績評価基準	<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>成績評価：科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）</p>				
使用テキスト等	<p>「こども家庭支援論」(配本テキスト)</p> <p>「保育所保育指針解説書」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p>				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	相談援助の基盤と専門職	授業区分	講義	単位数	4
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義について理解する。 ・ 精神保健福祉士の役割と意義について理解する。 ・ 相談援助の概念と範囲について理解する。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉士の役割と意義 ・ 精神保健福祉士の役割と意義 ・ 相談援助の概念と範囲 ・ 相談援助の理念 ・ 相談援助における権利擁護の意義 ・ 相談援助に係る専門職の概念と範囲について理解する。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉士の役割と意義(社会福祉士の役割と意義) 2 社会福祉士の役割と意義(現代社会と地域生活) 3 相談援助の定義と構成要素(ソーシャルワークの概念) 4 相談援助の定義と構成要素(ソーシャルワークの構成要素) 5 相談援助の形成過程Ⅰ(ソーシャルワークの源流) 6 相談援助の形成過程Ⅰ(ソーシャルワークの基礎確立期（～1930年代）) 7 相談援助の形成過程Ⅱ(ソーシャルワークの発展期（1940代～50年代半ば）) 8 相談援助の形成過程Ⅱ（ソーシャルワークの展開期（1950年代半ば～1960年代以降）) 9 相談援助の形成過程ⅠⅠ（ソーシャルワークの統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク） 10 相談援助の理念Ⅰ（ソーシャルワーカーと価値） 11 相談援助の理念Ⅰ（ソーシャルワーク実践と価値） 12 相談援助の理念Ⅰ（ソーシャルワーク実践と権利擁護） 13 相談援助の理念Ⅰ（クライアントの尊厳と自己決定） 14 相談援助の理念Ⅰ（ノーマライゼーションと社会的包摂） 15 専門職倫理と倫理的ジレンマ（専門職倫理の概念） 16 専門職倫理と倫理的ジレンマ（倫理綱領の意義と内容） 17 専門職倫理と倫理的ジレンマ（ソーシャルワーク実践と倫理的ジレンマ） 18 総合的かつ包括的な相談援助の全体像（「総合的かつ包括的な相談援助」の動向とその背景） 19 総合的かつ包括的な相談援助の全体像（地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座・四つのパラダイムシフト） 20 総合的かつ包括的な相談援助の全体像（地域を基盤としたソーシャルワークの八つの機能） 21 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論（ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点） 22 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論（ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質・「総合的かつ包括的な相談援助」の基礎理論） 23 相談援助にかかる専門職の概念と範囲（相談援助専門職の概念） 24 相談援助にかかる専門職の概念と範囲（相談援助専門職の範囲） 25 相談援助にかかる専門職の概念と範囲（諸外国の動向） 26 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能（予防機能） 27 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能（新しいニーズへの対応機能） 28 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能（総合的支援機能） 29 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能（権利擁護機能） 30 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能（社会資源開発機能） 				
成績評価基準	出席状況、受講態度、筆記試験を総合して評価する。				
使用テキスト等	<p>「新・社会福祉士養成講座 第6巻」（配本テキスト）</p> <p>「相談援助の基盤と専門職」（配本テキスト）</p>				
実務経験がある教員による授業科目	<p>保育所 園長（経験15）</p> <p>※上記の経験のある園長により、社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義について理解するように授業を行う。</p>				

授業概要 (シラバス)

令和2年度 こども未来学科

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度 (前期)	授業区分	講義	単位数	4		
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要 (高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む。) について理解する。 ・ 高齢者福祉制度の発展過程について理解する。 ・ 介護の概念や対象及びその理念等について理解する。 ・ 介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。 ・ 終末期ケアの在り方 (人間観や倫理を含む。) について理解する。 ・ 相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する 						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要 (高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む。) ・ 高齢者福祉制度の発展過程 ・ 介護の概念や対象 ・ 介護予防 ・ 介護過程 ・ 認知症ケア ・ 終末期ケア ・ 介護と住環境 ・ 介護保険法 ・ 介護報酬 ・ 介護保険法における組織及び団体の役割と実際 ・ 介護保険法における専門職の役割と実際 ・ 介護保険法におけるネットワーキングと実際 ・ 地域包括支援センターの役割と実際 ・ 老人福祉法 ・ 高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律 (高齢者虐待防止法) ・ 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律 ・ 高齢者の居住の安定確保に関する法律 						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者の特性 (高齢者の社会的理解、高齢者の身体的理解、) 2 高齢者の特性 (高齢者の精神的理解、高齢者の総合的理解・人生における高齢期) 3 少子高齢社会と高齢者 (少子高齢社会の社会的問題) 4 少子高齢社会と高齢者 (高齢者を取り巻く諸問題) 5 高齢者保健福祉の発展 (高齢者保健福祉の起源と生成・古代から近代) 6 高齢者保健福祉の発展 (高齢者保健福祉制度の発展) 7 高齢者支援の関係法規 (高齢者保健福祉の法体系、老人福祉法) 8 高齢者支援の関係法規 (高齢者の医療の確保に関する法律、高齢者虐待防止法その他の関係法規) 9 介護保険法の基本的枠組み (介護保険制度の全体像、介護保険制度の目的と理念) </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 10 介護保険法の基本的枠組み (保険財政、保険者と被保険者、介護保険制度の最近の動向) 11 介護保険制度の仕組み (要介護認定の仕組みとプロセス、保険給付、介護報酬、地域支援事業) 12 介護保険制度の仕組み (介護保険事業計画、サービスの質を確保するための仕組み) 13 介護保険サービスの体系 (介護保険サービスにおける専門職の役割と実際、居宅サービス、施設サービス、) 14 介護保険サービスの体系 介護予防サービス、地域密着型サービス) 15 高齢者を支援する組織と役割 (行政機関の役割、指定サービス事業者・国民健康保険団体連合会の役割、地域包括支援センターの組織体系と役割、社会福祉協議会、ボランティア団体・非営利民間活動) </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者の特性 (高齢者の社会的理解、高齢者の身体的理解、) 2 高齢者の特性 (高齢者の精神的理解、高齢者の総合的理解・人生における高齢期) 3 少子高齢社会と高齢者 (少子高齢社会の社会的問題) 4 少子高齢社会と高齢者 (高齢者を取り巻く諸問題) 5 高齢者保健福祉の発展 (高齢者保健福祉の起源と生成・古代から近代) 6 高齢者保健福祉の発展 (高齢者保健福祉制度の発展) 7 高齢者支援の関係法規 (高齢者保健福祉の法体系、老人福祉法) 8 高齢者支援の関係法規 (高齢者の医療の確保に関する法律、高齢者虐待防止法その他の関係法規) 9 介護保険法の基本的枠組み (介護保険制度の全体像、介護保険制度の目的と理念) 	<ol style="list-style-type: none"> 10 介護保険法の基本的枠組み (保険財政、保険者と被保険者、介護保険制度の最近の動向) 11 介護保険制度の仕組み (要介護認定の仕組みとプロセス、保険給付、介護報酬、地域支援事業) 12 介護保険制度の仕組み (介護保険事業計画、サービスの質を確保するための仕組み) 13 介護保険サービスの体系 (介護保険サービスにおける専門職の役割と実際、居宅サービス、施設サービス、) 14 介護保険サービスの体系 介護予防サービス、地域密着型サービス) 15 高齢者を支援する組織と役割 (行政機関の役割、指定サービス事業者・国民健康保険団体連合会の役割、地域包括支援センターの組織体系と役割、社会福祉協議会、ボランティア団体・非営利民間活動)
<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者の特性 (高齢者の社会的理解、高齢者の身体的理解、) 2 高齢者の特性 (高齢者の精神的理解、高齢者の総合的理解・人生における高齢期) 3 少子高齢社会と高齢者 (少子高齢社会の社会的問題) 4 少子高齢社会と高齢者 (高齢者を取り巻く諸問題) 5 高齢者保健福祉の発展 (高齢者保健福祉の起源と生成・古代から近代) 6 高齢者保健福祉の発展 (高齢者保健福祉制度の発展) 7 高齢者支援の関係法規 (高齢者保健福祉の法体系、老人福祉法) 8 高齢者支援の関係法規 (高齢者の医療の確保に関する法律、高齢者虐待防止法その他の関係法規) 9 介護保険法の基本的枠組み (介護保険制度の全体像、介護保険制度の目的と理念) 	<ol style="list-style-type: none"> 10 介護保険法の基本的枠組み (保険財政、保険者と被保険者、介護保険制度の最近の動向) 11 介護保険制度の仕組み (要介護認定の仕組みとプロセス、保険給付、介護報酬、地域支援事業) 12 介護保険制度の仕組み (介護保険事業計画、サービスの質を確保するための仕組み) 13 介護保険サービスの体系 (介護保険サービスにおける専門職の役割と実際、居宅サービス、施設サービス、) 14 介護保険サービスの体系 介護予防サービス、地域密着型サービス) 15 高齢者を支援する組織と役割 (行政機関の役割、指定サービス事業者・国民健康保険団体連合会の役割、地域包括支援センターの組織体系と役割、社会福祉協議会、ボランティア団体・非営利民間活動) 						
成績評価基準	出席状況、受講態度、筆記試験を総合して評価する。						
使用テキスト等	「新・社会福祉士養成講座 第13巻」(配本テキスト) 「第13巻 高齢者に対する支援と介護保険制度—高齢者福祉論」(配本テキスト)						
実務経験がある教員による授業科目	看護師 (26年) ※上記の経験のある看護師により、相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解するように授業を行う。						

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度（後期）	授業区分	講義	単位数	—
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む。）について理解する。 ・高齢者福祉制度の発展過程について理解する。 ・介護の概念や対象及びその理念等について理解する。 ・介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。 ・終末期ケアの在り方（人間観や倫理を含む。）について理解する。 ・相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法律制度について理解する 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む。） ・高齢者福祉制度の発展過程 ・介護の概念や対象 ・介護予防 ・介護過程 ・認知症ケア ・終末期ケア ・介護と住環境 ・介護保険法 ・介護報酬 ・介護保険法における組織及び団体の役割と実際 ・介護保険法における専門職の役割と実際 ・介護保険法におけるネットワーキングと実際 ・地域包括支援センターの役割と実際 ・老人福祉法 ・高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律（高齢者虐待防止法） ・高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律 ・高齢者の居住の安定確保に関する法律 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者支援の方法と実際（高齢者支援の方法） 2 高齢者支援の方法と実際（介護保険法における連携と実際） 3 高齢者を支援する専門職の役割と実際（専門職の役割と実際） 4 高齢者を支援する専門職の役割と実際（専門職による協働（多職種連携）） 5 高齢者を支援する専門職の役割と実際（専門職の倫理） 6 介護の概念や対象（介護の概念と範囲、介護の理念） 7 介護の概念や対象（介護の対象、介護予防） 8 介護過程（介護過程の概要、介護過程の展開技法） 9 介護各論(1)（自立に向けた介護、家事における自立支援） 10 介護各論(1)-①（身支度・移動・睡眠の介護、食事・口腔衛生の介護、入浴・清潔・排泄の介護） 11 介護各論(1)-②（身支度・移動・睡眠の介護、食事・口腔衛生の介護、入浴・清潔・排泄の介護） 12 介護各論(1)-③（身支度・移動・睡眠の介護、食事・口腔衛生の介護、入浴・清潔・排泄の介護） 13 介護各論(2)（認知症ケア） 14 介護各論(2)（認終末期ケア、住環境） 15 近未来の高齢者福祉課題 				
成績評価基準	出席状況、受講態度、筆記試験を総合して評価する。				
使用テキスト等	<p>「新・社会福祉士養成講座 第13巻」（配本テキスト）</p> <p>「第13巻 高齢者に対する支援と介護保険制度—高齢者福祉論」（配本テキスト）</p>				
実務経験がある教員による授業科目	<p>看護師（26年）</p> <p>※上記の経験のある看護師により、高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について授業を行う。</p>				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力（D.V）の実態を含む。）について理解する。 ・ 児童・家庭福祉制度の発展過程について理解する。 ・ 児童の権利について理解する。 ・ 相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について理解する。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要(一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力(D.V)、地域における子育て支援及び青少年育成の実態を含む。)と実際 ・ 児童・家庭福祉制度の発展過程 ・ 児童の定義と権利 ・ 児童福祉法 ・ 児童虐待の防止等に関する法律（児童虐待防止法） ・ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（D.V 法） ・ 母子及び寡婦福祉法 ・ 母子保健法 ・ 児童手当法 ・ 児童扶養手当法 ・ 特別児童扶養手当等の支給に関する法律 ・ 次世代育成支援対策推進法 ・ 少子化社会対策基本法 ・ 売春防止法 ・ 児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際 ・ 児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際 ・ 児童・家庭福祉制度における多職種連携、ネットワークと実際 ・ 児童相談所の役割と実際 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会と子ども家庭（少子高齢社会と次世代育成支援、現代社会と子ども家庭の問題） 2 現代社会と子ども家庭（子どもの育ち） 3 現代社会と子ども家庭（子育てのニーズ） 4 子ども家庭福祉とは何か（子どものための福祉の原理、子ども家庭福祉の理念） 5 子ども家庭福祉とは何か（子どもと家庭の権利保障、児童福祉の発展） 6 子ども家庭福祉にかかわる法制度(子ども家庭福祉の法体系、子ども家庭福祉の実施体制) 7 子ども家庭福祉にかかわる法制度(子ども家庭福祉の財政、子ども家庭福祉の専門職) 8 子ども家庭福祉にかかわる法制度(苦情解決と権利擁護) 9 子ども家庭にかかわる福祉・保健(母子保健、障害・難病のある子どもと家族への支援、児童健全育成) 10 子ども家庭にかかわる福祉・保健(保育、子育て支援、ひとり親家庭の福祉、児童の社会的養護サービス) 11 子ども家庭にかかわる福祉・保健(非行児童・情緒障害児への支援、児童虐待対策) 12 子ども家庭にかかわる福祉・保健(子どもと家庭にかかわる女性福祉) 13 子ども家庭への援助活動(子ども家庭への相談援助活動) 14 子ども家庭への援助活動(施設ケアと子ども家庭福祉援助活動) 15 子ども家庭への援助活動(地域援助活動とネットワーク) 				
成績評価基準	出席状況、受講態度、筆記試験を総合して評価する。				
使用テキスト等	「新・社会福祉士養成講座 第15巻」(配本テキスト) 「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 一児童福祉論」(配本テキスト)				
実務経験がある教員による授業科目	乳児院 現施設長 ※上記の経験のある乳児院施設長により、児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力（D.V）、地域における子育て支援及び青少年育成の実態を含む。）と実際について授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和2年度 こども未来学科

科目名	福祉サービス組織と経営	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など）を理解する。 ・ 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について理解する。 ・ 福祉サービスの経営と管理 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉サービスに係る組織や団体 ・ 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論 ・ 福祉サービス提供組織の経営と実際 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 福祉サービスにおける組織と経営（福祉サービスにおける組織） 2 福祉サービスにおける組織と経営（経営、福祉サービスと制度） 3 福祉サービスにかかわる組織や団体（法人とは、社会福祉法人） 4 福祉サービスにかかわる組織や団体（特定非営利活動法人） 5 福祉サービスにかかわる組織や団体（その他の組織や団体） 6 福祉サービスの組織と経営の基礎理論（戦略、事業計画、組織） 7 福祉サービスの組織と経営の基礎理論（管理運営の基礎理論、集団の力学に関する基礎理論） 8 福祉サービスの組織と経営の基礎理論（リーダーシップに関する基礎理論） 9 福祉サービスの管理運営の方法(1) サービス管理（サービスマネジメント、、サービスの質の評価） 10 福祉サービスの管理運営の方法(1) サービス管理（苦情対応とリスクマネジメント、サービスのあり方の方向性） 11 福祉サービスの管理運営の方法(2) 人事管理と労務管理（人事・労務管理） 12 福祉サービスの管理運営の方法(2) 人事管理と労務管理（人材育成） 13 福祉サービスの管理運営の方法(3) 会計管理 14 福祉サービスの管理運営の方法(3) 財務管理 15 福祉サービスの管理運営の方法(4) 情報管理 				
成績評価基準	出席状況、受講態度、筆記試験を総合して評価する。				
使用テキスト等	「新・社会福祉士養成講座 第11巻」（配本テキスト） 「福祉サービスの組織と経営」（配本テキスト）				
実務経験がある教員による授業科目	乳児院 現施設長 ※上記の経験のある乳児院施設長により、福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など）を理解するように授業を行う。				